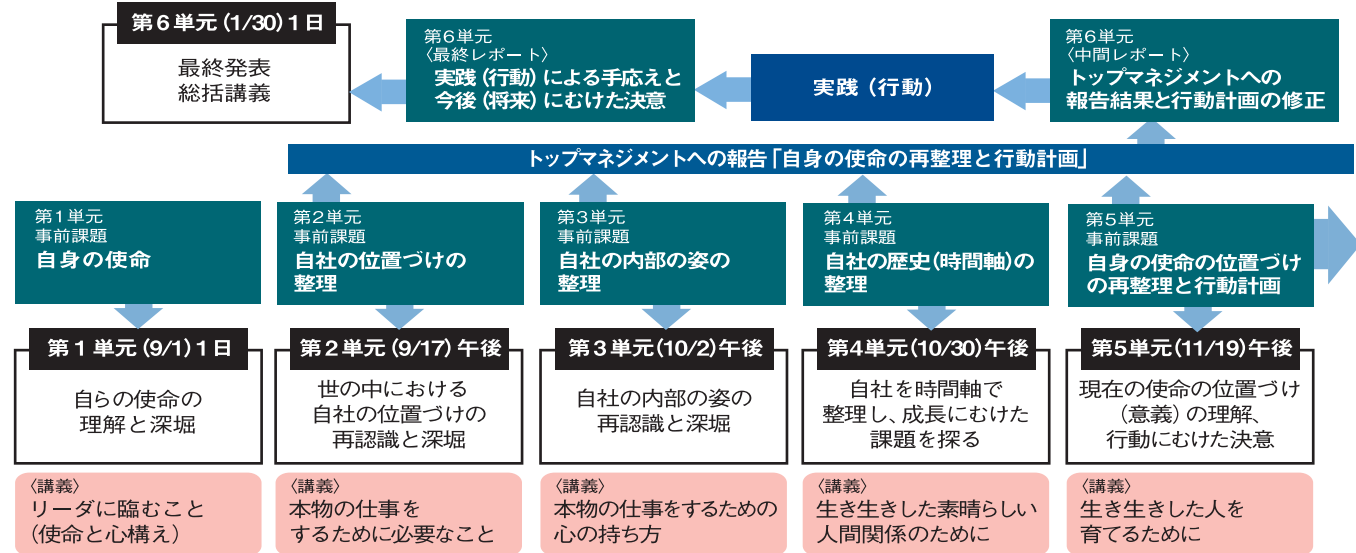


プログラムの流れ



受講者の声

第9期を受講された皆さんの声をご紹介します。(アンケートより抜粋)

評価点 80/100 ■ 今回のセミナーを受講したことで、ビジョン、戦略、戦術を結びつけることの重要性が理解できた。また、リーダーとしての人間力について大変学びになった。手応えを感じた項目は、●【自社の歴史と現在のフレームワーク】。自社の歴史を振り返り、調査を初めて実施し、現在に至るまでの変せんを知ることができ、多くの気づきがあった。

評価点 80/100 ■ 本リーダ塾を通じて、会社の位置付け、社内の体制を振り返り、自身の立場で何をすべきか明確になった。トッププレゼンを行って方向性について同意を得られたのがうれしかった。手応えを感じたのは【2単元と4単元】。過去の受講者の資料を参考にして、会社がなぜ存続できているか、今後何をするのかイメージできた。

評価点 90/100 ■ 視点の違った考え方ができ、会社(グループ)について改めて考えることができた。手応えを感じた項目は、【自身のミッションの再整理】自身の役割をしっかりと考えることができた。●事業部から会社全体へ、会社全体からグループ全体について考えられるようになった。

評価点 100/100 ■ 経営者視点で考えるポイント、ヒントを多くいただいた。課題整理の中で、自分の理解の足りないところがわかり、教えてもらうきっかけとなった。手応えを感じた項目は、●【自社の歴史から見た課題まとめ】社会との関わりや内部の姿からの課題は考えたことはあったが、歴史からの気づきは新たな発見が多かった。●自身の課題意識を課員や他部署メンバーによく話し、意見をもらうようになった。考えの足りないところに気付いたり、参考になる情報が入ってきたりする。

評価点 80/100 ■ 自社の見方が変わった。他部門との交流の重要性が認識できた。自分の足りない能力に気付けた。手応えを感じた項目は●【トップへ報告】＝トップから指摘により自分が求められる姿が明確になった。●【第5単元】自分のやるべき課題、目指すべき方向が明確になった。●【第2単元】＝自社の内部を見ることで社内の課題が見えてきた。

評価点 80/100 ■ 会社全体を俯瞰して見る事が重要だということを学べた。自社以外の色々な会社の考え方に触れ、新しい視点を持てたことが有益だった。手応えを感じたのは、●【自社の歴史】＝環境の変化に対し、自社の取り組みが可視化できた。●【自社のフレームワーク】＝自部門以外に視点を移し、会社全体を見る機会となった。

評価点 90/100 ■ リーダ塾にてビジョン、自社の課題など改めて学ぶことができた。手応えを感じたのは、●【リーダに臨むこと】＝自分に課せられた心がまえが分かった。今後は、リーダ塾で学んだことを忘れず、会社の発展、自分の成長に挑んでいきたい。

評価点 80/100 ■ グループワークでのディスカッションをもう少し長い方が良かった。●共感させて一緒にやっていくという思いをどう伝えるか。どう組織をまとめていくかなどのヒントが様々あり、自身の行動を見直せる場であった。目標を決めるのに「あるべき姿」や「目指す姿」などを出すよう指導していたが、「ありたい姿」とはじめて聞き、良い響きだと感じた。

参加要項

■参加費 会員(お一人様) **176,000円** (160,000円+16,000円(税))

非会員(お一人様) **193,600円** (176,000円+17,600円(税))

※開催日 1-2週間前に、申込責任者様宛に受講票および請求書をお送り致します。

■振込先 三菱 UFJ 銀行 名古屋営業部 当座 No.420222 <口座名：一般社団法人中部産業連盟>

■お問い合わせ先 一般社団法人中部産業連盟 生産・業務革新推進部 牛田・大竹

〒461-8580 名古屋市東区白壁三丁目 12-13 TEL 052-931-3187 E-mail develop@chusanren.or.jp

こちらのQRコードからもお申込み頂けます↓



このページをコピーしていただき、下記に必要事項をご記入のうえ、切り取らずにFAXしてください。 **FAX 0120-342-740**

一般社団法人中部産業連盟 生産・業務革新推進部 牛田・大竹 行

年 月 日

【参加申込書】 『第10期 次世代リーダ塾』

所属部署・役職	氏名(フリガナ)	年齢
E-mail		
E-mail		

会社概要	業種(主要製品)	資本金	従業員数
		百万円	人

今回ご記入いただいた個人情報は、セミナー等の運営・情報提供(郵便、メール、FAX等)においてのみ使用いたします。詳細は、HP <http://www.chusanren.or.jp/privacy/index.html> をご覧いただき、同意の上、ご協力をお願い致します。関連情報の提供が不要の場合、下記にレートを記入いただき当連盟までご連絡下さい。
☐ セミナーなどの関連情報の案内を希望しない。

【会社名】

【住所】〒

TEL () -

FAX () -

【申込責任者】
所属・役職名

【氏名】

E-mail

中産連 会員 ・ 非会員 (○をお付けください)

「つなぐ力」と「尖った気質」。 それが、経営トップの片腕たる番頭の人間力。

■経営リーダを語る時、「人間力」という言葉がよく出てくる。しかし「人間力」とは何か、それを磨くための具体的方法となると、教えてくれる場を見つけるのは極めて難しい。本塾は、その難題へのひとつの答えである。



「つなぐチカラ」とは、外的には自社の使命と活動を社会や地域に理解してもらい、良好な関係を維持すること。内的には人の心をまとめ上げ、使命遂行に向けて一丸になること。一方の「尖った気質」とは、人とは違った視点を持ち、人の思いつかない発案で、自ら実行し、価値を創造できる。ちなみに気質は生まれつき持っているその人の個性であり、性格は後天的に得るパーソナリティの成熟部分であり、意味は異なる。そんな尖った人材の特徴を活かして経営トップの片腕たる番頭的な人材を育てられないだろうか。本塾は、まさにその番頭、経営トップの片腕となる次世代リーダの養成を目的に「リーダたる人間力を磨く」という難題に正面から取り組む。

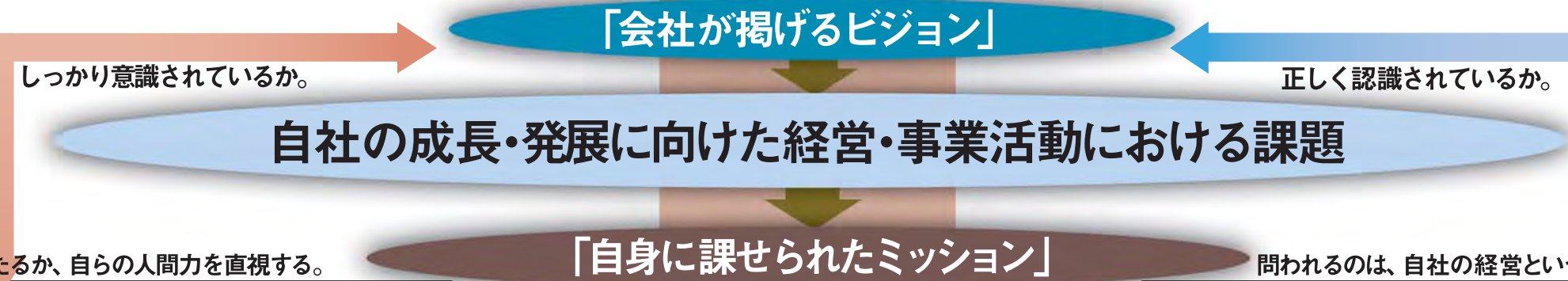


塾長・花井 嶺郎 著『気になる言葉』
「人は何のために生きるのか」「人間はいかにあるべきか」のヒントと勇気を与えてくれた「気になる言葉」。
本塾の講義で教材に。

「つなぐ力」と「尖った気質」を持った番頭を育みたい。

会社の番頭的存在、あるいは片腕として「つなぐチカラ」で経営トップを補佐する。それが本塾が掲げる「次世代リーダ」の使命である。

それまでの常識、価値基準が見直されつつある
不透明な世界の中で企業の舵取りを担う
経営トップの仕事は重く、悩み深い。
そんな時、トップに直言し、決断を後押しする
のが番頭存在の人間、その人間力だ。
本塾は、まさにその番頭、経営トップの
片腕となる次世代リーダの養成を目的に
「経営リーダたる人間力を磨く」という
難題に正面から取り組む。



- 第1単元→リーダに臨むこと(使命と心構え)
- 第2単元→本物の仕事をするために必要なこと
- 第3単元→本物の仕事をするための心の持ち方
- 第4単元→生き生きとした素晴らしい人間関係のために
- 第5単元→生き生きとした人を育てるために

本塾の基本的な考え方(姿勢)

1. 経営トップが「この人ならやってくれそうだ」という期待感を持てるような志・使命感を醸成する契機の間とする。
2. 「自社の位置づけ」「自社の姿」「自社の歴史の紐解き」を通じ、大局的な捉え方・経営的な構想力・マネジメント力に繋がる見方・考え方(心)についての学びと気づきを得る。
3. 自らの使命を“自らの考え・言葉”で整理し、確実な一歩(行動)に繋げることを目指す。

経営トップの片腕となる人のために

第10期 経営を担う
次世代リーダ塾 全6回
定員12名

■日 時	第1単元	2025年 9月 1日(月) 10:00~17:00
	第2単元	2025年 9月17日(水) 13:00~17:00
	第3単元	2025年10月 2日(木) 13:00~17:00
	第4単元	2025年10月30日(木) 13:00~17:00
	第5単元	2025年11月19日(水) 13:00~17:00
	第6単元	2026年 1月30日(金) 10:00~17:00
■会 場	中産連ビル セミナールーム (名古屋市東区白壁三丁目12-13)	
■講 師	花井 嶺郎 氏 ※右記プロフィール参照	
■参加対象	上位管理者・次世代リーダ(将来、経営トップの片腕として期待されている方)など	
■定 員	12名(定員となり次第、締め切らせていただきます)	

第9期における学びの風景



花井塾長による講義



グループ討議



塾生発表会



グループ討議



受講生の全員写真



<塾長・講師>花井 嶺郎 (はないみねお) 氏
1972年 名古屋大学 大学院工学研究科卒業
同年、日本電装株式会社(現 株式会社デンソー)入社
1988年-93年 NIPPONDENSO MANUFACTURING U.S.A
(ミシガン州バトルクリーク) 技術副社長
1994年 生産技術部長
1998年 株式会社デンソー 取締役
2006年 同社 専務取締役
2008年 アスモ株式会社 取締役社長
2010年 同社 顧問
2012年 同社 退社
※ 2000年 工学博士号取得、
2008年3月より日本機械学会フェロー

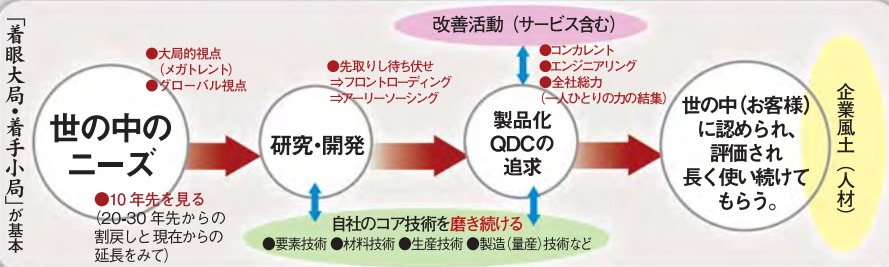
- 第2単元→事前課題 自社の位置づけ(世の中との関係)→下記フレーム1
- 貢献度合・社会的意義・お客様との繋がり
- 第3単元→事前課題 自社の姿(内部)→下記フレーム2
- ビジネスモデル・コア技術・組織・風土
- 第4単元→事前課題 自社の歴史(時間軸)→下記フレーム3
- 成長・苦境・成功・失敗 型 創業から繋がるDNA
- 第5単元→事前課題 自身の使命の再整理と行動計画
- 現在の使命の位置づけ(意義)の理解、行動にむけた決意
- 第6単元→事前中間レポート トップマネジメントへの報告結果
- 事前最終レポート 実践(行動)による手応えと今後(将来)にむけた決意

下の3つのフレームワークを参考に、自社の場合の
フレーム作成が必須課題となります。

フレーム1. 世の中における企業として自社の位置づけ



フレーム2. 自社の姿(内部)



フレーム3. 自社の歴史～現在 成長・発展・苦境・挽回 変遷のグラフ

